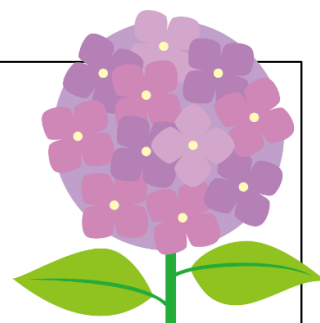




今日の一言

7. 6. 12 校長 渕上 卓也



戦争について考える



先週の水曜日、渕上は5年生の校外学習に同行させてもらいました。長崎市科学館と原爆資料館の見学がメインでした。

科学館では、いろいろな実験道具にふれたり、科学工作に取り組んだり、プラネタリウムに感動したりして、興味関心を高めることができました。将来、科学者を志し、ノーベル賞を狙う大園っ子が出てくるかもしれませんね。よかったら、今のうちに伝えてもらって、サインをもらっておきたいと思います。5年生、よろしくお願いします。

科学館の後は、原爆落下中心地、原爆資料館、追悼平和祈念館を回り、戦争と平和について学びました。話を聞いたり本で読んだりはしていると思いますが、実際にその場所に立ち、目で見、雰囲気を感じて、深く心に響いている様子でした。

一緒に回りながら、子どもたちからたくさんの質問を受けた渕上です。「原爆が落ちた直後の町の様子はどうだったの？」「原爆の爆風は、どのくらい熱かったの？」「町が元通りになるまでに、どのくらい時間がかかったの？」・・・感じることがたくさんあったのでしょね。

そんな中、一人の女の子から、こんな質問を受けました。「どうして戦争するのですか？」子どもらしい、素朴な疑問ですが、核心をついています。原爆の惨状を目の当たりにして、そんな思いが湧いたのでしょね。「今でも世界のどこかで戦争が起きていること。」「人の命が失われるとわかっているのに、戦争が繰り返されていること。」「今この時、どこかの国で誰かの命が失われているかもしれないこと。」彼女はしっかりと理解していました。保護者の皆様なら、どう答えられますか？

その場で、渕上はこう答えました。「あなたの疑問の答えが、原爆資料館の中にあると思うよ。」正直これしか返答ができませんでした。資料館の展示をしっかりと見て、感じて、考えて、答えに辿り着けたかな？
平和集会までに、私もしっかり考えておきます。たいへん刺激を受けた、鋭い質問でした。

<今日の一句>

子の問いに

即答できない

時もある

卓也

